

伊賀市 事務事業評価シート

ソフト事業

事業名	コード	名称	会計	コード	名称
事業名	1125	スポーツ活動振興事業	01	01	一般会計
基本施策	34	だれもが気軽に楽しめるスポーツを振興する	10	10	教育費
			06	06	保健体育費
			01	01	保健体育総務費
担当部課名		教育部 生涯学習課 スポーツ振興室	102	102	スポーツ活動振興事業
作成者氏名	前田 明伸	連絡先	22-9680	01	スポーツ活動振興事業

事業の計画・内容

事業の目的	対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)				
小学生・中学生など地域や個人や団体でスポーツを楽しむ青少年 地域のリクリエーション大会に集う人 マラソン大会に参加する人 スポーツ競技種目や地域スポーツ・リクリエーションを楽しむ人 女子サッカーをサポートする人		心と体がリフレッシュされる 病気に負けないケガをしにくくなる体を作る 人と人の交流が出来る				
本年度事業内容	市体育協会(社会体育振興事業)及び市スポーツ少年団(青少年スポーツ活動育成事業)にスポーツやリクリエーション活動を委託する 市民スポーツフェスティバルを開催し7つの種目に幅広い年齢層の市民が集い一日スポーツを楽しむ 伊賀上野シティマラソン大会を開催しコースごとに市民や市外のマラソンランナーが徒競走を楽しむ レベルの高い女子サッカー大会を開催しサッカーの競技人口を増やしレベルの向上を目指す 女子サッカーチーム「くのー」の応援や育成のために伊賀フットボールクラブ運営助成をする 日本プロ野球の名球会・OBを招き少年が指導を受け野球のレベルアップをする					
開始年度	平成	年度	終了年度	平成	年度	根拠法令・要綱等

投入資源

		H17	H18(予算)	H19(予算)
①投入人員	正規職員 (人)	2.2	1.6	2.1
	人件費合計(A)	15,840	11,520	15,120
②支出内訳(千円)	事業費(B)	29,050	25,422	21,950
	委託料	25,450	20,050	18,750
	助成金	3,600	3,400	3,200
	その他			
合計(A+B)		44,890	36,942	37,070
③財源内訳(千円)	特定財源			
	国県支出金			
	地方債			
	受益者負担			
	その他特財	2,000	2,000	
	一般財源	42,890	34,942	37,070
上記①～③に関する特記事項				

事業実績

活動指標	単位	実績値			目標値		
		H17	H18	H19	H17	H18	H19
市民スポーツフェスティバルの参加人数	人	2,582	2,686	2,789			
スポーツ指導者数	人	519	520	520			

評価指標

事業の目的の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	H17	H18(目標)	H19(目標)
大会参加者人数の比率 本年度大会参加者人数/前年度大会参加者人数	小学生から高齢者まで幅広く市民の参加を募るスポーツ・リクリエーション大会の代表的な「市民スポーツフェスティバル」に参加した昨年の人数を分母とし、本年度の人数を分子として比率を市民のスポーツ活動の指標としました。	%	目標 ()	104	104
スポーツ指導者の比率 スポーツ指導者数/目標スポーツ指導者数	数値目標に対する比率として、年度目標のスポーツ活動指導者数を分母に該年度のスポーツ活動指導者数を分子として比率を指導者の指標としました。	%	目標 ()	100	100

事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等

今日、スポーツは住民の相応の負担によって行われるという考えが定着してきました。しかし、大会についてはまだまだです。たとえば、事業の実施に当たっては実行委員会の組織編制をしていますが、仕事等ある中ですが委員の方の分掌は当日にお手伝いいただく程度で行政職員主体の大会運営になっています。実行委員会の形式の目的は幅広く市民の方にスポーツ・リクリエーションに関心を持ってもらい、草の根的に地域や団体でスポーツの振興を進めていただく狙いを持っています。今後も住民の方の自主的な活動が広がるようにしたい。

評価	必要性	3	スポーツやリクリエーションをとおして心や体の健康を保つことは、社会を明るくし、病気になるない・介護を出来るだけ受けないために大切なことです。協会や団体での活動は行政に出来ないところを補い、大会の開催は機運を高める機会としても大切です。伊賀市のスポーツ活動の全体を点検し浸透を図るよう今後も努めたい。また、行政主体の自主事業を指定管理者や住民自治協議会の事業に委託することも考えたい。	総合評価	
	有効性	4		A	
	達成度	3			
	効率性	3			